感　想

安野・中国人受難者追悼の集いに参加して

斉藤 健三

初めての集いへの参加は 2016 年だったかと思います。

仕事を退職後二年余り、新聞で追悼の集いがあることを知り、地元である安野発電所建設にかかる中国人受難者がいることに驚き、飛び込みで集いに参加させてもらいました。

「歴史」に関心がなく、学校の授業で、いつ何があったかを覚える位で、嫌々勉強していたものです。しかし、歴史が現実の積み重ねの結果であり、現在に続いており、その中で利害も発生し、加害・被害があり、国際関係・隣国との真の平和を築けない状況に悶々としていました。

翌年から加計の現地でお手伝いできることとして、会場づくりのテント・椅子等の借用を町行政にお願いし、行事が重なったときは地域の振興会等にお願いして仲間と共に運搬・設置等を行なっています。

1992 年からの実態調査、93 年から 4 年間の西松建設との交渉と 98 年から 9 年にわたる裁判を経て、2009 年 10 月 23 日和解が成立し、その後も和解事業を継続されていることに心から敬意を申し上げます。

マンハッタン（原爆製造）計画に参加した米国元科学者に対して（2005 年 6 月）、

被爆者が「『原爆を落としたから早く終戦になった』とか…ヒロシマの悲惨さがわかってもらえてないのでは…本当に申し訳ないと思っていただけない…」と述べたことに対し、

元科学者は、「私にとっては真珠湾攻撃が決定打でした。私は真珠湾であまりにも多くの友人を亡くしました（死者 2402 人）。…今後政府が戦争をしないことを望むだけです。そして、どんな場合においても核が使われないことを望みます。それは本当に無責任な行為ですから。」

再度、被爆者が「…おっしゃったように、人類が使ってはいけない核兵器を使って、それに対して謝らないということを伝えられないです。…謝っていただきたいと思います。」

元科学者は「私は謝らない。彼（日本軍）が謝るべきだ」「こんな言葉があるんだよ『リメンバー、パールハーバー！（真珠湾を忘れるな）』」

パレスチナ・ガザでのハマスとイスラエル紛争で、問題の発端は 2000 年以上前ともいわれているが、2023 年ハマスがイスラエルに攻撃し 1200 人の死者と 250 人の人質がきっかけとなり、今はガザでは 6 万 7 千人超（9 月末現在）の死者数といわれており、停戦の継続と早期の終戦・平和を強く望むものです。

日本では現在、高市早苗首相の「台湾有事」にかかる発言で、日中間が極めて厳しい状況になっています。まさに戦前の悪夢の再来といえる状況です。

私たちは、「安野 中国人受難之碑」碑文に記載されている「…歴史を心に刻み、日中両国の子々孫々の友好を願ってこの碑を建立する。」にあるように民間外交（交流）が政府間のものとなるように取り組んでいく決意を更に固めたいと思っています。